

委 25-3-1

第23回宇宙開発委員会（定例会議） 議事要旨（案）

1. 日時 平成8年7月31日（水）
14:00～15:30
2. 場所 委員会会議室
3. 議題 (1) 前回議事要旨の確認について
(2) 科学技術庁航空・電子等技術審議会の報告について
(3) 宇宙基地協力協定改正交渉等の結果について
(4) 小型自動着陸実験（ALFLEX）について
4. 資料 委23-1 第22回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委23-2 地球変動予測の実現に向けて
委23-3 第10回宇宙基地協力協定改正交渉等結果概要
委23-4 小型自動着陸実験（ALFLEX）のこれまでの成果について（速報）
5. 出席者
宇宙開発委員会委員長代理 野 村 民 也
宇宙開発委員会委員 末 松 安 晴
" 長 柄 喜一郎

関係省庁
通商産業省機械情報産業局次長 河 野 博 文（代理）
郵政大臣官房技術総括審議官 甕 昭 男 "

事務局
科学技術庁研究開発局長 加 藤 康 宏
科学技術庁長官官房審議官 大 熊 健 司
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長 千 葉 貢 他
6. 議事
(1) 前回の議事要旨の確認について
第22回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委23-1）が
確認された。

(2) 科学技術庁航空・電子等技術審議会の報告について

科学技術庁海洋地球課 丸山課長より、資料委23-2に基づき、航空・電子等技術審議会に設置されている地球科学技術部会が取りまとめ、同審議会に報告した報告書「地球変動予測の実現に向けて」について説明があった。

本報告書では、地球変動予測計画のために、アジア・太平洋地域における気候変動の予測、地球温暖化の予測など6つの「目標」、プロセス研究、観測システム及びシミュレーションの3つの機能が一体となった研究開発を総合的かつ計画的に推進する「戦略プログラム」並びにこの戦略プログラムを遂行するための「研究開発10カ年計画の策定」が提言されている。また、地球変動予測計画の推進方策として、①研究開発推進体制の強化、②資金及び人材の確保、③国際協力体制の構築、④戦略プログラムの更なる内容の充実が挙げられている。

これに関し、委員より、我が国の地球変動予測に関する研究開発の予算規模や研究体制、また、関係省庁、海洋科学技術センター及び宇宙開発事業団との連携状況などについて質問があった。

(3) 宇宙基地協力協定改正交渉等の結果について

科学技術庁調査国際室 中西室長より、資料委23-3に基づき、7月22日にベルリンで行われた宇宙基地了解覚書(MOU)関連機関協議ワーキンググループ会合及び7月23日～25日に同じくベルリンで行われた第10回宇宙基地協力協定改正交渉の結果について報告があった。

宇宙基地了解覚書(MOU)関連機関協議ワーキンググループ会合では、米露MOU協議状況の報告及びMOU第11条(搭乗員)に関する協議が行われたこと、第10回宇宙基地協力協定改正交渉では、本協定改正に残されている各条項ごとの課題に関する協議が行われたこと、また、それぞれの協議内容について説明があった。

これに関し、委員より、改正される宇宙基地協力協定の我が国としての扱い等の質問があった。

(4) 小型自動着陸実験(ALFLEX)について

科学技術庁航空宇宙技術研究所 森総合研究官、坂東飛行実験部部長及び宇宙開発事業団 柴藤参事より、資料委23-4に基づき、6月末よりオーストラリアのウーメラ飛行場で行われている小型自動着陸実験(ALFLEX)について、これまで行われたフェーズⅠの実験の成果として、一次解析レベルの評価では設計通りであったこと、フェーズⅠについては計画したHOPE-Xの設計に必要な基本的な技術データを全て取得できたため所期の目的は達成したといえること、今後のデータ取得状況によっては実験期間の1～2週間の延長を検討していること等の説明があった。

これに関し、委員より、HOPE-Xの帰還時の設計風の条件、実験期間の延長の理由及び実験データの意味について質問があった。

以上